

教科名	国語		科目名	現代の国語			必修		
科別	普通	科	学年	1年	コース名	選抜α	コース	2単位	文理共通
教科書（発行所）		現代の国語(大修館書店)							
副教材（発行所）		大学入試漢字TOP2000(いいずな書店)、読解演習はじめての評論文20選(明治書院)小論文チャレンジノートVol.1・2(第一学習社)							

学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
観 点 別 評 価	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 ・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 「わかりやすく書く」(書く)	・叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 ・文章の要点をまとめる。 ・話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 ・相手に正確に伝わる書き方を身につける。	
	6	4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	・他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
第2学期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	・相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 ・さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『安くておいしい国』の限界」(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	・資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 ・統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	・質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
	12	9 情報を比較する 『美しさの発見』について」(読む)	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習
第3学期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 ・資料に基づいて、聴き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

教科名	国語		科目名	言語文化			必修	
科別	普通	科学年	1年	コース名	選抜α	コース	2単位	文理共通
教科書（発行所）	言語文化(大修館書店)							
副教材（発行所）	基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)							

学 習 目 標		言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 言語文化への視点 「世界を見わたす窓」 2 言葉の紡ぐ世界 「羅生門」	・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・場面ごとの人物の心情変化を読み取る。	
	5	3 伝統と発展 「実体の美と状況の美」 「短歌 十二首」 「俳句 十五句」	・美についての筆者の考えを読み取る。 ・短歌や俳句に親しみ、表現の特徴を理解する。 ・作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。	中間考査
	6	4 表現の多様性「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不思議 日本語の不思議」 6 文学と人生「城の崎にて」	・作品の表現に着目しながら読み味わう。 ・日本語と外国語の特徴を捉え、日本語を相対化し見つめ直す視点を養う。 ・主人公の心情変化を、動物や自然との関わりから読み取る。	
	7	探究「災害の記録」	・異なる時代に書かれた記録文を読み、災害が人々に及ぼした影響について考える。	期末考査 夏季課題学習
第 2 学 期	9	1 古文に親しむ 「宇治拾遺物語」 2 自然へのまなざし 「徒然草」「枕草子」	・古文の仮名遣いや、特有の言い回しに慣れる。物語の展開を捉える。 ・自然の情景に対する作者の感覚を捉える。	夏季課題提出
	10	3 想いを表す言葉〈一〉 「恋するころ」 「四季の移ろい」 「旅と別れ」	・和歌の印象的な部分について考える。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・自分の感じたことを言葉にする。	中間考査
	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語への招待」	・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・『源氏物語』の概要を知り、他の作品に与えた影響について考える。	
	12	5 語り継がれる歴史 「平家物語」	・特徴的な文体のリズムを味わう。 ・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているか読み取る。	期末考査 冬季課題学習
第 3 学 期	1	6 旅と人生 「土佐日記」「更級日記」 1 漢文に親しむ 「私たちと漢文」「論語」	・旅に出るまでのならわしや、旅立ちに際しての思いを読み取る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。 ・漢文に親しむ。	冬季課題提出
	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉〈二〉 漢詩	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。 ・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る。	
	3	4 文学と社会 「雑説」	・論理の展開を読み取る。 ・作者の主張を読み取る。	学年末考査 春季課題学習

教科名	地 歴 公 民			科目名	地 理 総 合			必 修			
科 別	普 通		科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α		コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）				地理総合(東京書籍)							
副 教 材（発行所）				地理総合ワークノート(東京書籍)							

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的にな考察や深い理解に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぼう 地図種類、地形図ルール、主題図種類と読取、地理情報システムと地図 [発展]地形図を読み取ろう、WebGISを使ってみよう	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
第 2 学 期	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】提出
	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第 3 学 期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調査)、まとめと発表	学年末考査

教科名	地 理 歴 史	科目名	歴 史 総 合	必修					
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）	詳説歴史総合(東京書籍)								
副 教 材（発行所）	詳説歴史総合 要点整理ノート(東京書籍)								

学 習 目 標		必修科目として、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テスト・課題提出で評価し、要点整理ノート各項目の最後にある「TRY」の答えなどを提出させて、効果的に調べまとめる技能を評価する。
	思考・判断・表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問題や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に追及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	・前近代の日本と世界のつながり ・前近代の世界 ・歴史と深くかかわる植物	【GW探究課題】
	5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結びつく世界と日本の開国	・18世紀のヨーロッパとアジア ・産業革命のはじまり ・東アジアの国際秩序の変化日本の開国 ・世界経済の変化と日本の産業革命	中間考査
	6	3節 国民国家と明治維新	・市民革命と近代社会 ・自由主義とナショナリズム ・明治維新と東アジアの国際関係 ・帝国主義と植民地	
	7	4節 近代化と現代的な諸課題	・帝国主義諸国の競合と国際関係 ・20世紀はじめの世界	期末考査
第 2 学 期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・国際協調体制の形成 ・ソヴィエト連邦の成立と社会主義 ・民主主義の拡大と社会変革の動き	【夏季探究課題】 提出
	10	3節 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発	中間考査
	11		・アジア太平洋戦争と日本の敗戦 ・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	
	12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・花ひらく大衆文化	期末考査
第 3 学 期	1	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	・冷戦の拡大と第三勢力 ・キューバ危機と核兵器の管理 ・冷戦下の日本とアジア ・ベトナム戦争と冷戦構造の変容	【冬季探究課題】 提出
	2	3節 世界秩序の変容と日本	・石油危機と経済の自由化 ・アジアの経済発展と日本 ・冷戦の終結と世界 ・拡散する地域紛争	
	3	4節 現代的な諸課題の形成と展望	・この時代の生活・文化	期末考査

教科名	数 学		科目名	数 学 I			必修		
科 別	普 通		科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	3 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		深進数学 I（啓林館）							
副 教 材（発行所）		Grasp I A（啓林館）							

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数	多項式とその加法・減法，多項式の乗法，因数分解 [発展]3次の展開と因数分解 実数，根号を含む式の計算 【探究】式の値の計算の工夫	準備課題提出 確認テスト
	5	第3節 1次不等式	不等式の基本性質，不等式とその解 絶対値を含む方程式・不等式 【探究】絶対値を含む方程式・不等式のいろいろな解法 [発展]2重根号	中間考査
	6	第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ	関数，2次関数のグラフ，2次関数の決定 【探究】グラフの平行移動・対象移動	
	7	第2節 2次関数の最大・最小	2次関数の最大・最小，最大・最小の応用 【探究】定義域が変化するときの最大・最小	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3節 2次関数と方程式・不等式	2次方程式，2次関数のグラフとx軸の共有点 [発展]放物線と直線の共有点 【探究】絶対値を含む関数のグラフ 2次不等式とその解 【探究】2次方程式の解の存在範囲	
	10	第3章 集合と命題 第1節 集合と命題	集合と命題 逆・裏・対偶 [発展]「すべて」と「ある」 [探求]背理法の応用	中間考査
	11	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張	三角比の定義・相互関係 半円と座標を用いた三角比の定義	
	12	第3節 正弦定理と余弦定理	正弦定理と余弦定理 [発展]三角形の形状	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第4節 図形の計量	図形の面積と計量 [発展]三角形の内接円の面積・ヘロンの公式	
	2	第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析	度数分布表とヒストグラム・代表値・四分位数・分散と標準偏差 データの相関と散布図・相関係数・相関と因果関係・仮説検定	学年末考査
	3	第2節 統計的探求プロセス	[探求]データの散らばり具合の指標 [探求]PPDACサイクルの利用	

教科名	数 学		科目名	数 学 A			必修					
科 別	普 通		科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α		コース	2	単位	文理共通	
教 科 書（発行所）		深進数学A(啓林館)										
副 教 材（発行所）		Grasp I A(啓林館)										

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合の要素の個数 場合の数 和の法則・積の法則 [探求]正の約数の個数	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 順列・組合せ	順列 いろいろな順列 [探求]立体の塗分け 組合せ 同じものを含む順列 [発展]重複組合せ [探求]最短経路の総数	中間考査
	6	第3節 確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質 [探求]同様に確からしいとは	
	7	第4節 いろいろな確率 第5節 期待値	独立な試行 反復試行 [探求]反復試行の応用 条件付き確率 [探求]条件付き確率の利用 期待値	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	直線と角 三角形の重心・外心・内心 [探求]三角形の五心 チェバの定理とメネラウスの定理 三角形の成立条件	
	10	第2節 円の性質	円周角の定理とその逆 円に内接・外接する四角形 接線と弦のなす角 方べきの定理 2つの円の位置関係	中間考査
	11	第3節 作図 第4節 空間図形	作図 [探求]作図と証明 空間における平面・直線の位置関係 多面体	
	12		[探求]三垂線の定理 [探求]空間図形の捉え方	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 数学と人間の活動 第1節 数学と歴史・文化	位取り記数法 ユークリッドの互除法 地球を測る	
	2	第2節 数学とゲーム・パズル	石取りゲーム マスの敷き詰め	学年末考査
	3		1年の総復習	

教科名	理 科		科目名	物 理 基 礎			必 修		
科 別	普 通		科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		改訂 新編 物理基礎(東京書籍)							
副 教 材（発行所）		新課程版 ネオパルノート物理基礎(第一学習社)							

学 習 目 標		主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。
留 意 事 項		年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1節 運動の表し方 2節 変位と速度 3節 等速直線運動	運動の表し方を学び、運動の様子を定量化して調べる方法を理解する。 変位と速度の概念を理解し、活用する。 等速直線運動を定量化して表す。	【教材】映像教材、スマートカート(通年)
	5	4節 合成速度と相対速度 5節 速度が変わる運動 6節 自由落下運動	合成速度・相対速度について理解する。 徳加速度直線運動について学び、式での表現を理解する。 自由落下運動について実験を通して理解し、重力と等加速度運動についての理解を深める。	【実験】斜面を下る台車の運動、重力加速度の測定 ○中間考査
	6	7節 鉛直投射 9節 力とつり合い 10節 力の合成と分解 11節 垂直抗力と弾性力 12節 慣性の法則	鉛直投射について理解し、式で表し活用する。 力を見つけ図示する方法を学び、静止物体にはたらく力がつりあうことを理解する。 垂直抗力と弾性力について理解する。 慣性について日常との関りを持って理解する。	【教材】真空落下実験器、ストロボ装置 8節 水平投射は扱わない
	7	13節 運動の変化と力 14節 作用反作用の法則	運動が変化するとき力がはたらくことを実験を通して理解する。 運動方程式の立て方を学び、簡単な物体の運動について、運動方程式を用いて分析する。 作用反作用の法則について日常との関りを持って理解する。	【実験】弾性力の測定、力と加速度の関係 ○期末考査
第 2 学 期	9	15節 動摩擦力とその性質 16節 静止摩擦力とその性質 19節 仕事 20節 仕事率	動摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 静止摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 物理での仕事の定義を学び、仕事を用いて運動の様子を理解する。 仕事率の定義を学び、日常との関りをもって理解する。	17節、18節は扱わない
	10	21節 運動エネルギー 22節位置エネルギー 23節力学的エネルギーの保存 24節いろいろな運動で見る力学的エネルギー	運動エネルギーの定義を学び、運動をエネルギーを通して理解する。 位置エネルギーの定義を学び、重力と弾性力による位置エネルギーを理解する。 力学的エネルギーの保存について実験・観察を通して理解する。 様々な運動におけるエネルギーの移り変わりを理解する。	○中間考査
	11	1節 温度と熱 2節 熱と物質 3節 熱の移動と保存 4節 熱と仕事 5節 熱機関と可逆変化	熱と温度の概念を学び、その違いを理解する。 熱による物質の変化の様子を学び、物質の3態を理解する。 比熱の概念を学び、熱の移動と熱量の保存を実験を通して理解する。 熱力学第一法則を学び、熱と仕事の関係を理解する。 熱機関のしくみを日常との関りを通して学ぶ。	【実験】熱の移動
	12	6節 いろいろな波 7節 波の表し方 8節 横波と縦波	波動現象の特徴を日常や実験・観察を通して理解する。 波を言葉やグラフ、数式を用いて表す方法を学ぶ。 横波と縦波の特徴を理解し、違いを学ぶ。	【教材】つるまきばね、シミュレーション ○期末考査
第 3 学 期	1	9節 波の重ね合わせ 10節 定在波 11節 波の反射	波の重ね合わせを日常との関りを通して理解し作図による合成を学ぶ。 定在波の生じる理由を気づきを通して学び、その特徴を理解する。 波の反射を日常との関りを通して学び、反射波の作図を学ぶ。	【教材】ウェーブマシン、シミュレーション
	2	12節 音波 13節 弦の固有振動 14節 気柱の固有振動	波としての音の特徴を学び、音を物理的に捉える考え方を学ぶ。 弦楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、その特徴を理解する。 管楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、疎の特徴を理解する。	【教材】共鳴おんさ、弦定常波実験器 【実験】弦の固有振動、気柱の固有振動
	3			○学年末考査

教科名	理 科		科目名	化 学 基 礎			必 修		
科 別	普 通		科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α ・ 選 抜 ・ 進 学	コース	2 単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）		化学基礎(東京書籍)							
副 教 材（発行所）		新課程版 アプローチドリル化学基礎①～③(第一学習社)							

学 習 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや実験、課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分、2節 物質の構成元素	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	実験(混合物の分離)
	5	3節 物質の三態 2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 1節 原子の構造	物質の状態とその変化について理解する 原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	実験レポート提出 中間考査
	6	2節 電子配置 3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	電子配置を理解し、電子配置の表し方を学ぶ 周期表がどういった決まりで元素を並べているか理解する イオン結合とイオン結晶の性質を理解し、組成式について学ぶ	 確認テスト
	7	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 金属結合と金属結晶の性質を理解する 化学結合の種類と物質の性質について分類し、考察する	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	3編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出 確認テスト
	10	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する 化学反応式やイオン反応式の表し方を学ぶ 化学反応式が表す量的関係について理解する	 中間考査
	11	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する	 確認テスト
	12	3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	中和反応のしくみと塩の性質について理解する 中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	実験(中和滴定) 実験レポート提出 期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	電子に着目して酸化・還元を考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する	冬季課題提出 確認テスト 実験(酸化剤と還元剤の反応)
	2	3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	さまざまな金属の反応性について理解する 電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	実験レポート提出
	3			学年末考査 課題学習

教科名	理 科	科目名	生 物 基 礎	必修					
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	2	単位	文理共通

教 科 書（発行所）	高等学校 生物基礎（第一学習社）
副 教 材（発行所）	セミナー 生物基礎（第一学習社）

学 習 目 標		生物や生命現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する興味、関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。演習を通じて、大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留 意 事 項		単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。実験は授業進度の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。観 点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを学ぶ。 ・生物が共通にもつ特徴を学ぶ。 ・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を学ぶ。	
	5	2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	・代謝には同化と異化があること、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを学ぶ。 ・光合成、呼吸の反応、ATPの合成について学ぶ。 ・酵素の基本的な特徴について理解する。	中間考査
	6	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	・遺伝子とDNA、染色体の関係を理解する。 ・DNAの基本的な構造を理解する。 ・多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖し、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 ・分裂している細胞の各過程で起こる現象を理解する。	
	7	2. 遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	・生体内には多種多様なタンパク質が存在していることを理解する。 ・DNAの転写、翻訳の流れを理解し、タンパク質がどのように合成されているかを学ぶ。 ・遺伝子がゲノムの一部であることを理解する。	期末考査
第 2 学 期	9	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 ①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系	・体内の状態が一定の範囲内で保たれるという恒常性について学ぶ。 ・体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ・内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。	
	10	③体内環境を調節するしくみ 2. 免疫 ①生体防御	・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 ・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。	中間考査
	11	②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	・免疫に関する細胞や器官の種類と働きを理解する。 ・自然免疫、獲得免疫のしくみを理解する。 ・免疫に関する身近な疾患、免疫と医療の関わりについて学ぶ。	
	12	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	・植生の種類と構造について学ぶ。 ・陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・植生は一定ではなく、移り変わっていることを具体例に基づいて理解する。	期末考査
第 3 学 期	1	2. バイオーム ①遷移とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 ①生態系の成り立ち	・地球上において年平均気温、年降水量から、その地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 ・日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解する。 ・生態系の構成について理解する。	
	2	②生態系における生物どうしの関わり 2. 生態系のバランスと保全 ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	・生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 ・生態系保全の国際的な取り組み、絶滅危惧種の保全について学	
	3			学年末考査

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育 (男 子)		必修				
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	2	単位	文理共通
教 科 書 (発 行 所)		新高等保健体育(大修館)								

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりとする。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・新体力テスト	・ベンチプレスを安全に行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。	
	5	・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論	・スクワッドを安全に行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツの発祥と成立	
	6	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	・デッドリフトを安全に行うことができる。 ・安定したボール操作を身につける。 ・様々な部位を使って自分の思い通りにボールを操作できるようにする。 ・スポーツ文化の発展と現代社会	
	7	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	・ベンチプレス、スクワット、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・状況に応じたボール操作をできるようにする。 ・さまざまな状況でゴールに向かってシュートが打てるようにする。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会	
第 2 学 期	9	・体づくり運動 ・陸上(投てき)	・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、メディシンボールを突き出して投げるができる。(グライド投法) ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。	
	10	・体づくり運動 ・陸上(走り高跳び) ・体育理論	・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・リズムカルな助走、はさみ跳びやベリーロールで跳ぶことができる。 ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・競技会を安全かつスムーズに運営することができる。 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業	
	11	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	・big3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・スポーツに求められる高潔さ	
	12	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境	
第 3 学 期	1	・体づくり運動 ・持久走	・2キロ走を2週にわたって実施する。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とする。 ・完走後の達成感やリラクゼーション効果も体感させる。	
	2	・体づくり運動 ・武道(剣道)	・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・防具を正しく、素早く着けることができる。 ・防具を正しく、素早く片づけることができる。 ・面打ち、胴打ちを用いて攻防を行うことができる。	
	3	・体づくり運動 ・武道(剣道)	・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・45秒刻みでの地稽古で相手の動きに応じて攻防を繰り返すことができる。	

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育 (女 子)		必修			
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	選 抜 α	コース	2 単位	文理共通
教科書（発行所）		新高等保健体育(大修館)							

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・集団行動、自校体操、体づくり運動 ・新運動能力テスト 50M走、ハンドボール投げ、立幅跳び、反復横跳び 上体起こし、握力、持久走もしくはシャトルラン	・集合、整列、挨拶、列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ・本校独自の準備体操を体得する。 ・体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動 ・現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 ・1スポーツの発祥と成立 2スポーツ文化の発展と現代社会 について理解する。	
	5	・体育理論		
	6	・球技 【 ホッケー 】 A)スティックの扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・スティックを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	7			
第 2 学 期	9	・陸上競技 【 走り高跳び 】 A)はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。	
	10	【 投てき 】 A)砲丸投げの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	・砲丸投げの投げ方を正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。	
	11	・体育理論 ・ダンス 【 リズムダンス 】	・3オリンピック・パラリンピックと国際社会 4スポーツの経済効果とスポーツ産業 について理解する。 ・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。	
	12			
第 3 学 期	1	・持久走 ・体育理論	・長距離走やインターバルトレーニングなどを取り入れ、心肺機能の向上、健康保持増進を図る。 ・与えられた課題に前向きに取り組む、自己の能力を最大限に発揮することができる。 ・5スポーツに求められる高潔さ 6持続可能性からみたスポーツと環境 について理解する	
	2	【 卓球 】 基本技術(フォアハンド・ハーフボレー・ツッツキ) サーブ・レシーブ ダブルスでの攻防 ゲーム形式練習(ルールの理解) リーグ戦	・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技においての攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	3			

教科名	芸 術		科目名	音 楽 I			必修選択				
科 別	普 通		科 学 年	1	年	コース名	選 抜 α	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）		音楽 I Tutti+ トウッティプラス（教育出版）									

学 習 目 標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項		・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・中学校までの復習テスト・教科ガイダンス ・楽器学 ・歌唱 ・ボディーパーカッション	・中学校までの学習内容確認 年間計画、評価方法等について説明 ・オーケストラの楽器紹介 ・校歌を覚える。素直な発声を心掛ける ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする	
	5	・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・歌唱	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・近代・現代音楽 ・反復記号 ・日本語の歌を取り上げ、曲想の理解と個性豊かな表現を目指す	映像による鑑賞
	6	・歌唱 ・実技テスト(歌唱) ・楽典 ・ミュージカルの世界	・日本人作曲家の紹介 ・暗譜で一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・音名(日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る	映像による鑑賞
	7	・楽典 ・1学期の復習、小テスト	・音符の計算 ・楽典の理解力を図る	
第 2 学 期	9	・楽典 ・歌唱(イタリア歌曲) ・歌唱(ドイツリート)	・リズム譜 ・イタリアカンツォーネについて解説。イタリア語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す ・ドイツリートについて解説。ドイツ語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す	
	10	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・箏曲	・一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・ロマン派の音楽 ・関係調 ・箏と琴の基礎知識	映像による鑑賞
	11	・箏曲 ・実技テスト(箏曲) ・鑑賞、音楽史 ・楽典	・箏の練習(荒城の月)、楽譜の読み方、奏法を覚える ・一人ずつ伴奏に合わせて実施 ・中世、ルネサンス、バロック、古典派の音楽 ・音程	映像による鑑賞
	12	・バレエの世界 ・ボディーパーカッション ・2学期の復習、小テスト	・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする ・楽典の理解力を図る	映像による鑑賞
第 3 学 期	1	・ボディーパーカッション ・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞	・2学期からの継続 ・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
	2	・実技テスト(歌唱) ・創作	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかわらせて、イメージを持って音楽を表現する 一人ずつ実施 ・二部形式の歌を作曲	作品提出
	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを感じ取る	

教科名	芸 術		科目名	書 道 I			必修選択				
科 別	普 通		科 学 年	1	年	コース名	選 抜 α	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）		書道 I（教育出版）									

学 習 目 標		書道の幅広い活動をととして、書に関する見方・考え方はたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨ず。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項		観点別評価については、学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	書の美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材―文房四宝― 姿勢・執筆 古典の学び方	書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。	芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。
	5	一 漢字の書の学習 書体の変遷 拓本と碑について	漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。	世界史の学習に関連します。
	6	一 楷書の学習 1 さまざまな楷書 2 唐の四大家	漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。	各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。
	7	3 北魏の書 実技課題(做書作品制作) 小テスト	各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身に付けます。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して、做書作品を制作します。また、書道に関する基礎的な知識の確認テストを実施します。	
第 2 学 期	9	二 行書の学習 1 さまざまな行書 2 王羲之と顔真卿の行書	さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的に捉えたうえで、行書の特徴について理解します。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。
	10	唐の太宗と蘭亭序 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書	代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身に付けます。	世界史の学習に関連します。
	11	3 日本の行書 実技課題(条幅作品制作) 小テスト	各自の個性を生かすことのできる古典を選択して、条幅の臨書作品を制作します。また、書道に関する基礎的な知識の確認テストを実施します。	
	12	二 仮名の書の学習 1 仮名の世界へようこそ	我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ、その成立過程や仮名の種類、字源について理解していきます。 平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
第 3 学 期	1	2 蓬萊切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き	上代様の仮名の鑑賞をととして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的に捉え、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をととして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけます。	仮名独自の美しさを感得します。
	2	三 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉を表現する 実技課題(漢字仮名交じり作品制作) 2 感動や思いを表現しよう	自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もあります。 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していきます。	1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組めます。
	3	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をととして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。	

教科名	外国語		科目名	英語コミュニケーションⅠ			必修		
科別	普通	科	学年	1年	コース名	選抜α	コース	4単位	文理共通
教科書（発行所）	MY WAY English CommunicationⅠ（三省堂）								
副教材（発行所）	Next Stage英文法・語法問題（桐原書店）／Speaking Gym Basic（数研出版）／総合英語Vision Quest（啓林館）／Date Base 4500（桐原書店）								

学 習 目 標		英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を適格に理解する能力、英語で自身の意見を的確に表現し発表する能力を総合的に培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	英語の音声や語彙、表現、文法、品詞の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。（小テストにはスピーキングテストを含む）観点別評価には、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	Lesson 1 Proverbs Around the World	【文法事項】現在形・過去形 / 進行形 / SVO(O=that節) 世界のさまざまなことわざの意味を理解する。留学生に紹介することわざについて話し合う。	確認テスト
	5	Lesson 2 Iwago Mitsuaki－An Animal Photographer	【文法事項】助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身 岩合光昭さんの動物写真家としての生き方や考え方を理解する。図書館に飾る写真について話し合う。	中間考査
	6	Lesson 3 Sending Canned Mackerel to Space	【文法事項】動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 高校生が新しい宇宙食を開発した経緯を理解する。宇宙で食べたい日本の食べ物について話し合う。	
	7	Lesson 4 Messages from Winnie the Pooh	【文法事項】現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形 「くまのプーさん」に込められたメッセージを理解する。留学生に紹介する日本の物語について話し合う。	期末考査
第2学期	9	Lesson 5 Endangered Languages	【文法事項】関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is...to不定詞 世界の消滅の危機にある言語について理解する。英語以外に学びたい言語について話し合う。	夏季課題提出
	10	Lesson 6 A Wheelchair Traveler	【文法事項】現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is...that～ 三代達也さんの世界旅行の経験とそこで気づいたことを理解しよう。旅行者に勧める日本の都市について話し合う。	中間考査
	11	Lesson 7 The Fugees	【文法事項】関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 難民の子どもたちのサッカーチームができた経緯を理解する。海外からの移住者に対してできる活動について話し合う。	
	12	Lesson 8 Avatar Robots	【文法事項】条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish～ / as if～ 分身ロボットについて理解する。未来の技術や製品について話し合う。	期末考査
第3学期	1	Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination	【文法事項】SVOO(O = how to～) / SVO+to不定詞 / SVOC(C= 動詞の原形) / SVOC(C = 現在分詞) 角野栄子さんの作品と想像力の関係について理解する。一人で暮らすこと・家族と暮らすことについて話し合う。	冬季課題
	2	Lesson 10 SDGs-Sustainable Development Goals	SDGsに関する様々な問題について理解する。テーマを選んでグループでディスカッションをする。	
	3	Reading The Tale of Johnny Town-Mouse	可愛いイラストがたくさん入った絵本のようなねずみの物語を楽しく読む。	期末考査

教科名	外国語		科目名	論理・表現 I			必修		
科別	普通	科	学年	1 年	コース名	選抜 α	コース	2 単位	文理共通
教科書（発行所）	Vision Quest English Logic and Expression I Standard（啓林館）								
副教材（発行所）	Next Stage英文法・語法問題（桐原書店） / 総合英語Vision Quest（啓林館） / Vision Quest 論理と表現 Alpha I Standard（啓林館）								

学 習 目 標		学習した文法規則や表現方法を活用しながら、自分の考えや意見等を英語を用いて能動的に発信しようとする態度を培うとともに、論理の展開や表現の方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分の考えを伝えあうことが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価には、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	Lesson 1 I want to introduce my new friend.	・応答する・理由を述べる 【文の種類】さまざまな疑問文 / 命令文 / 感嘆文 / 単文 / 重文 / 複文	確認テスト
	5	Lesson 2 Do you want to join our show?	・賛成・反対する・聞き直す 【文型と動詞】SV/SVC/SVO/SVOO/SVOC/There+be動詞+主語/注意すべき自動詞と他動詞	中間考査
	6	Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend. Lesson 4 Have you ever tried it before?	・激励する・励ます・計画する・予定する【時制】現在形/過去形/will・be going to で未来のことを表す/現在形・進行形で未来のことを表す ・経験を尋ねる・初めての経験を述べる【完了形】現在完了形/現在完了形と共に使える語句/過去完了形/時間的前後関係 / 未来完了形	
	7	Lesson 5 What do you want to do after high school?	・許可を求める・依頼する・義務・必要を表す・回想する・自省する 【助動詞】can/could/may/might/must/have to do/should/ought to do,had better do/will/would/used to do/助動詞+have+過去分詞/wouldを含む慣用表現	期末考査
第 2 学 期	9	Lesson 6 Did you hear about the new shop?	・原因・影響を表す・喜び・驚きを表す 【受動態】基本的な受動態/様々な受動態/SVOO・SVOCの受動態/sayを使った受動態/群動詞の受動態/by以外が使われる受動態	夏季課題提出
	10	Lesson 7 I'm happy to have you with us.	・感謝する・謝罪する・弁解する 【不定詞】名詞的用法/形容詞的用法/副詞的用法/不定詞の意味上の主語/SVO+不定詞・原形不定詞/不定詞の否定形/不定詞が表す〈時〉/不定詞の進行形・受動態/不定詞を使った慣用表現	中間考査
	11	Lesson 8 What sport do you like playing?	・誘う・申し出る・推薦する 【動名詞】動名詞の用法/動名詞の意味上の主語/動名詞の否定形・受動態/動名詞が表す〈時〉/動名詞・不定詞を目的語とする動詞	
	12	Lesson 9 Digital media has come a long way.	・描写する・判断の根拠を述べる 【分詞】名詞を修飾する分詞/V(+O)+現在分詞/過去分詞/分詞構文の形と働き/慣用的な分詞構文/付帯状況を表す〈with+名詞+現在分詞/過去分詞〉	期末考査
第 3 学 期	1	Lesson 10 That's why I decided to go back.	・定義する・言い換える・経緯を説明する【関係詞】関係代名詞(主格のwho,which)/(目的格のwhom[who], which)/(所有格のwhose)/that/前置詞の目的語になる関係代名詞/what/限定用法と非限定用法/関係副詞/関係副詞の非限定用法/複合関係代名詞/複合関係副詞	冬季課題
	2	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones ?	・提案する・称賛する 【比較】原級を使った比較表現/比較級を使った比較表現/比較級を使った慣用表現/最上級を使った比較表現/原級・比較級を使って最上級の意味を表す	
	3	Lesson 12 I think it's a good idea.	・助言を求める・助言する・願望を表す 【仮定法】仮定法過去と仮定法過去完了/未来のことを表す仮定法/wishやas ifを使った仮定法/仮定法を使ったさまざまな表現	期末考査

教科名	家庭科		科目名	家庭基礎			必修		
科別	普通科	科	学年	1年	コース名	選抜α	コース	2単位	文理共通

教科書（発行所）	家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）
副教材（発行所）	生活ハンドブック（第一学習社）

学習目標		人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけるようにする。
観点別評価	知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけている。
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
留意事項		

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第9章 消費行動を考える 1節 消費行動と意思決定 2節 消費生活の現状と課題	- 主体的な消費行動について多角的に考える。 - 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 - 契約、多様な販売方法や支払い方法や支払いについて学ぶ。 - 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	
	5	3節 消費者の権利と責任 4節 ライフスタイルと環境	- 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 - これからの社会に求められる消費者の自覚と行動のあり方を検討する。 - 日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 - 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。	1学期中間考查
	6	第10章 経済的に自立する 1節 暮らしと経済 2節 将来のライフプランニング	- 生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 - 収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 - 適切な家計管理について考える。 - 将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。	
	7	生活設計	- 金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。 - 家庭基礎の学習を生かして、自分らしい生き方を設計する。	1学期期末考查
第2学期	9	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 2節 私たちの食生活	- 日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 - 食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 - ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。	
	10	3節 栄養と食品のかかわり	- 自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 - 食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。	第1回調理実習 2学期中間考查
	11	4節 食品の選び方と安全	- 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 - 食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。	第2回調理実習
	12	5節 食事の計画と調理 6節 これからの食生活を考える	- 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 - 食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 - 環境に配慮した食生活（食品ロス）について考える。	りんごの皮むき 実技試験 2学期期末考查
第3学期	1	第2章 自分らしい生き方と家族 3節 共に生きる家族	「家族」の条件とは何か考える。 - 家族のライフイベントについて考える。 - 家族が抱える問題を踏まえて、家族を支える仕組みについて具体的に考える。	
	2	4節 家族に関する法律	- 家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 - 家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	3学期期末考查
	3	4節 家族に関する法律	家族に関する法律の理念や背景・改正点について理解する。	